

# 芸術科

## I 芸術科の学習目標

### 音楽科の学習目標

- (1) 音楽Ⅰ 音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質能力を高める。
- (2) 音楽Ⅱ 音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深く関わる資質能力を高める。

### 美術科の学習目標

- (1) 美術教育を通して様々な表現を体験し、豊かな心情を養う。
- (2) 自己を表現することの喜びを味わわせ、発想豊かな想像力を育てる。
- (3) 日本の美術作品を鑑賞することにより、日本美術の伝統的な技法、表現を理解する。
- (4) 美術が社会に与える影響や役割を理解し、自己表現の手段としての美術を理解できるようにする。
- (5) 自主的・自発的な発想を奨励し、自ら考えたことが作品になる喜びを味わわせる。

### 書道科の学習目標

- (1) 基本的な書写能力を高める活動を通し、書に親しむ心を養い、感性を豊かにする。
- (2) 書を通して自己を表現することの喜びを味わわせ創造力を伸ばす。
- (3) 書の文化や伝統を理解し、生涯にわたり書に親しむ心を育てる。

## II 芸術科の3年間の科目構成と学習内容

		「科目」と学習内容			発展的な内容、特色ある活動、関連する行事等
高校段階	4年	音楽Ⅰ(必修選択) 2単位 ・歌唱や三味線実技を通して創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付ける。 ・創作活動や表現活動に必要な音楽理論や楽典など音楽の基礎知識の定着を図る。	美術Ⅰ(必修選択) 2単位 ・美術の制作活動全てを体験できるようにバランスよく、絵画・デザイン・彫刻および伝統文化について学習する。 ・美術の幅広い創造活動を通して美術を愛好する心情を育てる	書道Ⅰ(必修選択) 2単位 ・漢字・仮名・漢字仮名交じり書の基本を学ぶ。 ・古典の臨書を通して、書の文化や伝統を理解し、書の美に親しむ力を育てる。 ・臨書や鑑賞を通して感じ取った美的感性を自己の創作表現に活かす。	・入学式、卒業式 ・合唱コンクール
	5年	(芸術科科目の設定なし)			
	6年	音楽Ⅱ(自由選択) 2単位 ・音楽表現の技能や鑑賞能力をさらに高め、表現に生かす。 ・音楽大学に進学を希望する生徒に向け、志望大学・志望学科・受験方法に対応した実技・演習を行う。	美術Ⅱ(自由選択) 2単位 ・それまでの制作活動をふまえ、さらに個性豊かな美術の表現能力を高める。 ・進路を美術系大学(もしくは実技試験を有する大学)に絞っている生徒に対し、自ら課題を設定し、志望大学の入試傾向に適した対策を教員と共に取り組む。		・志望校のレベルに応じた実技や講義を行う。

\* 6年生の自由選択科目は受講希望者数によって変更があり得ます。

教科名 芸術科  
 科目名 音楽Ⅰ  
 対象 4学年選択者

I 学習到達目標

- 1 演奏に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら表現活動を工夫する。
- 2 音楽の特徴と文化的・歴史的背景、その他の芸術との関わり考えながら演奏したり鑑賞したりする。
- 3 音楽理論や楽典などの音楽的知識を深め、創作活動や表現活動に生かす。

II 授業の進め方（授業形態等）

歌唱分野（独唱・混声四部合唱・アカペラ等）  
 器楽分野（三味線実技・鍵盤楽器等）  
 鑑賞分野、創作分野、理論分野

III 教科書・補助教材

教科書 「MOUSA1」教育芸術社  
 補助教材 「やさしく学べる三味線入門」全音楽譜出版社

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容		授業時数	備考
		考 査	「教科書」の学習内容		
一 学 期	春休み 宿 題				
	4 5		歌唱 合唱 読譜、呼吸法、発声法 楽典1 聴音 ソルフェージュ 器楽 三味線実技	MOUSA1  優しく学べる三味線入門	8  4 4
	6 7		器楽 リズム（打楽器）アンサンブル 鑑賞 同作品における演奏者の解釈を知る 楽典2 聴音 ソルフェージュ 器楽 三味線実技 創作導入 編曲 歌唱 諸外国語の歌曲—イタリア歌曲—	MOUSA1  優しく学べる三味線入門	4 4 4 4
	夏休み 宿 題		課題 イタリア歌曲独唱練習		
二 学 期	9 10 11 12		歌唱 イタリア歌曲独唱 器楽 授業内コンサートに向けて企画・練習・発表 鑑賞 映画音楽 楽典3 聴音 ソルフェージュ 器楽 三味線実技	MOUSA1  優しく学べる三味線入門	16  2 2 10
	冬休み 宿 題				
	1 2 3		「合唱コンクール発表に向けた合唱練習」 楽典まとめ	合唱コンクール本番にて成果発 表	14 2
				計 78 (2単位)	
評 価	実技テストや単元テストに平常点（提出物・授業中の活動状況）を加味したものを評価の対象とし、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の観点別に5段階で評価をする。				

教科名 芸術科  
 科目名 **美術 I**  
 対象 4 学年選択者

### I 学習到達目標

- 1 制作活動を通して様々な表現を身につける。
- 2 自己を表現することの喜びを味わい、発想豊かな想像力を伸ばす。
- 3 日本の美術作品を鑑賞することにより、日本美術の伝統的な技法、表現を理解する。
- 4 美術が社会に与える影響や役割を理解し、自己表現の手段としての美術を理解できるようになる。
- 5 自主的・自発的な発想を広げ、自ら考えたことが作品になる喜びを味わう。

### II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 美術室での制作実習を基本とし、座学と実習を組み合わせた授業形態で実施する。
- 2 教員による講義、生徒による能動的な制作実習によって授業を進行する。
- 3 年に数回、制作した作品の鑑賞と美術作品の鑑賞を実施する。

### III 教科書・補助教材

教科書 美術 1（光村図書）

### IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容		授業時数	備考
		考 査	「教科書」の学習内容		
一 学 期	4		【オリエンテーション】	1	
	5		【鉛筆デッサン】 ・身近なものを描く (P.6-7) ・鉛筆デッサン (P.81-88)	9	
	6		【立体カードデザイン】 ・デザインについて (P.48-65) ・さまざまな配色 (P.124-125)	18	
	7		【日本美術作品鑑賞】 ・墨で描く (P.26-33) ・日本美術 (P.46-47)	2	
	夏休み 宿題				作家研究レポート
二 学 期	9		【木彫箱制作】 ・日本美術 (P.46-47)	28	
	10				
	11		【鑑賞】		
	12		・20世紀後半以降の美術 (P.45)	2	
三 学 期	1		【風景画制作】 ・風景を描く (P.8-15)	18	
	2				
	3				
				計 78 (2単位)	
評 価					<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内外における取組や提出物（実習の成果を含む）を評価の対象とする。</li> <li>・評価は、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」の観点別評価（ABC）と5段階の評定によって行う。</li> <li>・評価物はいずれも上記の観点別評価で行う。</li> </ul>

教科名 芸術科  
 科目名 書道 I  
 対象 4 学年選択者

I 学習到達目標

1 書に親しむ心を養い、感性を豊かにし、書写能力を高めるとともに、書の表現と鑑賞の能力を伸ばす。

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 漢字の書、仮名の書、漢字仮名交じり書の学習
- 2 臨書を中心として創作作品も制作
- 3 全体指導と個別添削指導による授業

III 教科書・補助教材

教科書 新編 書道 I（大修館書店）

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容		授業時数	備考
		考 査	「教科書」の学習内容		
一 学 期	春休み 宿 題				
	4		書写から書道へ 表紙 用具の種類とその扱い方についてP. 2～7	2	
	5		基本的筆使い 生活の中の書 P. 125～127 様々な漢字の書P. 10～17 楷書の学習P. 18～35 九成宮醴泉銘「楷法の極則」 P. 20～21, 24～25	2 2 4	
	6		孔子廟堂碑「明るく穏やかな用筆」 P. 22～25 雁塔聖教序「軽快」 顔氏家廟碑「重厚」 P. 26～31	4 4	
	7		牛橛造像記「方勢」 鄭義下碑「円勢」 P. 32～35 漢字の書の創作 P. 70～75	4 4	
	夏休み 宿 題				
二 学 期	9		行書の学習 P. 36～37 蘭亭序「用筆、字形ともに優れた完成された姿」 P. 38～44	4 4	
	10		風信帖「筆力に満ちた変化に富む書風」 P. 54～55 三筆、三跡 P. 56～57 篆書の学習 泰山刻石「小篆の典型」 P. 59	4 4 2	
	11		隸書の学習 曹全碑「破磔、横長の字形」 P. 66～67	4	
	12		草書の学習 書譜「躍動感のある芸術的表現」 P. 68～69 仮名の学習 P. 82～106 仮名の成立P. 82～83 基本P. 84～85 平仮名 P. 86～87 変体仮名P. 88～89 書式の教室P. 128～131	4 4 2 2	
	冬休み 宿 題				
三 学 期	1		連綿 P. 90～91 蓬萊切「端正な字形、のびやかな線質」 P. 92～93	4	
	2		高野切第三種「明るいわかり易い字形」 P. 94～95 俳句の創作 P. 100～102	4 2	
	3		漢字仮名交じりの書 P. 108～123 自分の表現を旨として①② P. 114～117 名筆に学ぶ表現の工夫①② P. 118～119 感動や思い表現しよう P. 114～115	2 2 2 2	
				計 78 (2単位)	
評 価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎時間ごとに提出作品とテスト作品で評価</li> <li>・黒板や水白板使用の全体指導でアウトラインをつかみ、個別指導（添削指導）に積極的に参加して細部まで技法を会得出来たか、文房四宝の忘れ物がないか等の授業態度も評価</li> </ul>				

教科名 芸術科  
 科目名 音楽Ⅱ（自由選択）  
 対象 6学年 選択者

I 学習到達目標

- 1 音楽理論や楽典などの音楽的知識を深める。
- 2 音楽的な技術を習得し、音楽を愛好する心情を育てる。
- 3 音楽大学・音楽学部・幼児教育関係に進学を希望する生徒に対して、志望大学・志望学科受験方法に対応した授業を行い、進路実現をはかる。

II 授業の進め方（授業形態等）

講義、実技

III 教科書・補助教材

教科書 「MOUSA 2」教育芸術社  
 補助教材 「楽典－理論と実習」音楽之友社

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容		授業時数	備考	
		考 査	「教科書」の学習内容			副教材・その他の学習内容
一 学 期	4		<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーション、個人面談</li> <li>・音楽理論Ⅰ-①② (基礎課題)</li> <li>・音楽理論Ⅱ-①② (基礎・応用課題)</li> </ul>		26	
	5					
	6					
	7					
	夏休み宿題					
二 学 期	9		<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽理論Ⅰ-③④ (過去問題演習)</li> <li>・音楽理論Ⅱ-③④ (過去問題演習)</li> </ul>		30	
	10					
	11					
	12					
	冬休み宿題					
三 学 期	1		<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽理論Ⅰ-⑤ (過去問題演習)</li> <li>・音楽理論Ⅱ-⑤ (過去問題演習)</li> </ul>		20	
	2					
	3					
					計 78 (2単位)	
評 価	各学期単元テストや授業中の取り組み、出席状況を評価の対象とする。					

教科名 芸術科  
 科目名 **美術Ⅱ（自由選択）**  
 対象 6学年 選択者

**I 学習到達目標**

- 1 制作活動を通して様々な表現を身につける。
- 2 自己を表現することの喜びを味わい、発想豊かな想像力を伸ばす。
- 3 日本の美術作品を鑑賞することにより、日本美術の伝統的な技法、表現を理解する。
- 4 美術が社会に与える影響や役割を理解し、自己表現の手段としての美術を理解できるようになる。
- 5 自主的・自発的な発想を広げ、自ら考えたことが作品になる喜びを味わう。

**II 授業の進め方（授業形態等）**

- 1 美術室での制作実習を基本とし、座学と実習を組み合わせた授業形態で実施する。
- 2 教員による講義、生徒による能動的な制作実習によって授業を進行する。
- 3 年に数回、制作した作品の鑑賞と美術作品の鑑賞を実施する。

**III 教科書・補助教材**

教科書 高校美術2（日本文教出版）

**IV 学習計画**

学 期	月	学 習 内 容		授業時数	備考
		考 査	「教科書」の学習内容		
一 学 期	4		【構成鉛筆デッサン】 ・錯覚による不思議な世界（P.20-21）	8	
	5		【自由制作課題1】 ※デッサン、絵画制作、木彫制作、デザイン構成、 鑑賞と論文から選択制	26	
	6				
	7				
二 学 期	9		【文化祭作品展示】 ・作品が場をつくりだす（P.80-81）	2	
	10		【自主制作課題2】 ※デッサン、絵画制作、木彫制作、デザイン構成、 鑑賞と論文から選択制	14	
	11				
	12				
三 学 期	1		【自主制作課題4】 ※デッサン、絵画制作、木彫制作、デザイン構成、 鑑賞と論文から選択制	18	
	2				
	3				
				計78 (2単位)	
評 価					<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内外における取組や提出物（実習の成果を含む）を評価の対象とする。</li> <li>・評価は、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」の観点別評価（ABC）と5段階の評定によって行う。</li> <li>・評価物はいずれも上記の観点別評価で行う。</li> </ul>